

## 藤原地域まちづくり懇話会“ふじはら茶論”

日 時：令和元年6月30日（日）14:00～

場 所：藤原庁舎

テーマ：市長講話に基づく意見交換

次 第：1 開会

2 日光市の歌（斉唱）

3 市長講話

4 意見交換

5 その他

6 閉会

### 《意見交換内容》

**参加者** 1ページの現状と課題という中に人口減少というのがいつもあるのですが、各市町村も同じ悩みを抱えて、大変難しくも重要な案件だということは、私も感じております。2年前の新聞記事に若年女性の定着は、人口の再生産だけではなく、地域の活性化という点でも重要だというような記事がありました。その中に、若年女性人口減少率というのがありまして、日光市は県内25市町の中で、7番目と載っていました。ちなみに一番減少率が高かったのは、茂木町です。また、若年女性が県外のほうに移住しているのではないかという推測がその新聞記事の中にありました。そこで、日光市の施政方針の中で、人が輝く日光をつくるというような企画がありますけれども、若年女性の定着化に向けた日光市の進め方について、お聞かせください。

**市長** あれは元総務大臣で岩手県知事だった増田さんが、人口減少社会についての本から、一気に大きく取り上げられるようになりました。消滅都市として、800いくつが消滅してしまうという本が出まして、一気に話題をさらっていったのです。その数の試算の根拠は、日光市にお子さんを出産できる歳の女性が何人住んでいるかというものです。何年後に何人になるかを計算していくと、最終的にまちがなくなるということなのです。

ですから、人口を増やそうですとか、移住者・定住者を増やそうという施策も必要なのですが、いかに若年女性の方に来ていただくかというのは、そこに力を入れてやっていかなくてはだめなのですが、今現在、そこにターゲットを絞って、市が施策を展開しているかというのと、やっております。今後の研究課題だと思いますけれども、まずは、進学とかで外に出て行くというのは止められない部分もありますから、出て行かれた方々に、いかに戻って来ていただけるかというのもあるのですが、人生設計の中で、いかに日光市を選んでもらえるかというところが重要なのかなと思います。ただ、非常に課題的には難しいです。とにかく国全体で見ましても、五大都市圏に人口が集中をして、栃木県の中で見ても、やはり宇都宮市に人口が集中しています。その中で、いかに若い女性の方々に日光に来ていただけるか、もしくは、日光に残っていただけるか、呼び込むかというところが、本当に課題だと思いますし、今現在、市ができてないところです。

**参加者** 女性が活躍できると思っていますが、そういうことで、いろいろ女性に関する施策を現在やっ

ています。それなりの実現を願っております。

**副市長** 安心して働くことができ、例えば、安定した生活、また出産なども含めて、そういった環境整備が必要なことというのは、よく分かっております。市の強みである観光面を生かして、例えば、交流人口を増やして、交流人口から定住につなげていくという施策が、まず一番大事だということは認識しているのですが、具体的な施策としましては、結婚支援ですとか、そういった細かいことはあるのですが、それが劇的な改善に向けて効果的かと言われると、その辺はまだ小さいです。しかし、できることから地道にやっていかないと何もできません。そういったスタイルで取り組んでいこうとしておりますので、よろしくお願いします。

**参加者** 今、人口減少の件でお話がありましたが、私は、人口減少を黙って見ているわけにはいかないと思いますし、今、獨協医療センターが森友のほうに移ろうとしていて、その他に企業の誘致ですね。私は、日光市としては、企業の誘致があまり積極的ではないのかなという見方をしているのですが、この辺どう考えているのでしょうか。また、高德にある獨協医療センターは、基本的には撤退するのですか。一部残すという話を我々は聞いていたのですが、その辺もお伺いしたいなと思います。

**観光経済部長** 日光市の企業誘致につきましては、轟工業団地と日光産業団地、2つの団地がございます。雇用の促進という面では、やはり工業団地を造って、そこに工場を誘致して、そこに働く場所を創る、それは非常に大事なことだということで進めてまいりました。轟工業団地につきましては、すべて完売で、大日光工業団地につきましては、獨協の移転先ということもありまして、現在販売のほうは、今、進めておりません。今後の考え方につきましては、単独立地ということで進めております。

昨年度、主に今市になりますけど、企業誘致ができるような大きな土地の調査をさせていただきました。そこで企業から問い合わせがあれば、そういったところをご紹介して進めていくということで考えてございます。また、市が持っている土地につきましても、企業誘致ができるようなところがあれば、企業用地として売買していくということで進めています。

**副市長** 企業誘致を絡めての話なのですが、確かに獨協医科大学日光医療センターが、土沢の日光産業団地のほうに、移転することが決定したというのは、今、申し上げたとおりなのですが、立地企業のほうの対策につきましては、日光の中に轟工業団地というのもあって、そこはほぼ完売で、日光産業団地のほうが11ヘクタールぐらいあります。そこも獨協のほうで、7、8割ぐらいは埋めてしまうということになると、若干、土地は残ると思いますが、中核に医療センターができることによって、周辺にまったく性質の違う工場を誘致するというのも、なかなか難しいこともあるので、その辺はそこに脈絡のあるようなものを誘導できるのかなと、今の段階では想定しております。

高德からの移転に関しては、元々珪肺労災病院があり、その後再生基本構想に基づきそこに獨協医科大学が入った時点で、いろいろな診療科も加えた上で充実させていこうという考えがありました。しかしそれ以降相当に時代も移り変わっております。人口が減って、受診者もどんどん減ってく中で、経営が非常に悪化してきている、そういったことがこの度の移転の発端であります。

また環境面として、あそこが踏切を渡らないと行けないという立地状況の問題、また、建物が相当古

くなってきている、そうしたやむにやまれぬ事情でもって、獨協側の考えとして、あそこは移転させてもらいたいというところが理由であります。その移転先として、たまたま産業団地が空いていたので、そちらのほうに移転という話が進んだということになっております。

跡地については、新聞等でも報道があるように、獨協の本部のほうで、一部の機能を残すという話も情報としてありますが、我々のほうとしましては、あの後には、何らかの施設のかたちで残っていただきたいということは、もちろん要望していくつもりでもおりますし、現状でもそういったお話はしています。しかしまだそこは、獨協と周りの医療機関との調整もありますので、先ほど市長のほうから申し上げた、地域医療連携推進法人という法人の仕組みの中で、すべての日光市内の病院が、そこに加盟をいただいているので、そのしくみの中でも、これから議論を詰めていきたいと考えております。

**参加者** 2点ほどお願いがあります。まずは川治の現状として、宿泊施設が8軒、あと飲食店、商店を合わせて30軒前後あるのですけども、実際に商売をやられているところは、26~7軒になるのかなと思います。その中で、若い跡継ぎがいる店というのが、正味5軒ぐらいしかないのです。あとは、もう経営者が60代、70代、80代の方がいらっしゃるのですが、こういう高齢者の方に話を聞くと、もう商売は自分の世代で終わりかなと、そういう意見がかなりあるので、できればこういう方たちに、あと10年、できればあと5年、もう少し商売をやって法人税を納めたい、所得税を納めたい、そういう気持ちになっていただければいいなと思っています。

できれば山間地でやっているような、地域おこし協力隊の人たちを、条件があるのですが、川治にも派遣していただけないかなと。そういうことであれば、昔から言われるように地域活性は、よそもの、若者、ばかものが必要と言われるように、そう言ったよそからの力が意外と活性の力になっていくと思うのです。派遣していただければいいのですけれど、ぜひ、こういう方に地域に住んでいただいて、地域の方々と一緒に生活して、市の財政が大変でしょうけれども、大変な中で、地域に住んでいる方の幸福度が上がっていけばいいのかなと思いますので、それを1つお願いします。

もう1つは先ほど市長から話がありましたけども、川治でも2軒ほど廃業した旅館があります。新川治橋の両サイドです。片方は、昔、如水庵と言われたところなのですが、現在、中国系の方が入って来て、中で作業しているのです。内装をやっているのかどうなのかわかりませんが、中で働いている方も中国系の方だと思うのですが、簡単な足場を組みながら、まわりはブルーシートで覆って、中で何をやっているのか全然わからない状況です。周りの人に聞くと、中国系の方だから日本語がわからないので、何を目的でやっているか全然わからないのです。そうなりますと、もし問題が起こったとき、市のほうでこういうことを把握しておいていただければ、迅速な対応が取れるのかなと思います。聞くところによれば、宿泊施設をつくっているのではないかと。そうすると、宿泊施設など許可の問題、また消防法とか出てくるのだと思うので、少し市のほうでも注視しながら調べていただきたいなと思います。

**地域振興部長** 最初の地域おこし協力隊の関係は、地域振興部で所管しているのですが、今現在、日光市のほうで市内に来ていただいている協力隊は、定員でいうところでは10名となっており、実際には現在9名の配置となっています。日光市として導入している目的は、高齢化集落、過疎地域の活性化ということで、足尾や栗山、藤原地域で言いますと三依地区が対象になっています。その他に特殊な目的といたしまして、地域の伝統工芸、日光彫の振興を目的として、1名入っていただいております。

今、おっしゃられたような川治地区にもというお話で言いますと、川治地区は、今、申し上げた目的とは違うものですから、新たに川治地区をどうしていきたいかという目的設定によって、導入を検討することは可能だとは思いますが。ただ、今の時点で思いが至っていなかったものですから、その辺を今後検討させていただきたいと思えます。

それと、もう1つは協力隊ではなく、「よその」というお話があったと思うのですが、確かに人口が減る中で、温泉街に限らず、外部の方がその地域に入り込んで関係性を持って、活性化に少しでも力を尽くしていただくということは、どこの地域でもあるお話しですし、そこが重要なところになってきていると思えます。川治地区でも、まちづくりとか地域づくりのようなものに、関わっていらっしゃる若い方、経営者の方というのは結構いらっしゃると思えます。川治地区だけではなく藤原地域ですとか、日光市全体というようなことで、そのようなことに関わっている横のつながりというのもあります。協力隊以外の、まちづくり、地域づくりに関わっているような方が、少しでもネットワークなりグループなりを組んでいただければ、市のほうで、そういう活動に対する補助金のような支援制度もありますので、そういったものを一緒に活用できるような方向性を、検討させていただければと思えます。

**企画総務部長** 2点目の如水庵についてなのですが、市長のほうから最初に説明がありましたが、こういったところに防犯関係や、崩落の危険等がありますので、庁内のほうで関係課による対策委員会のようなものをつくって、今、動いているところです。その中で、警察のほうとも協力をしながら、防犯対策を取っているところもありますので、その辺のところ、一度調査をさせていただきたいと思えます。

**副市長** 今、申し上げたのは、例えば、看板が落ちるとか、屋根が少し崩落しているのではないかとか、そういった危険が迫っているときは、対処療法的に市のほうも随時対応させていただいている所もあるということですが、仰っているのは、たぶん根本的な対応のことであると思われれます。市長のほうから申し上げたとおり20数軒というのは、旅館やホテルだけに限らず、実は、今市地域の中にも昔のビルとか危険なものがあるのですが、この中には所有者の所在が不明、またはそもそも所有者が判明しないなど、そういったものも結構あります。それも含め、行政が代執行で例えば解体をして、そのあと所有者に対してその経費に投下した資金を請求し回収するということは、非常に難しい課題が多いといえます。その辺を含めて、今、連絡会の中で検討させていただくということになります。

あと、協力隊の件では、日光市は栃木県の中でも、早めに協力隊をお願いをしてきている経緯があります。協力隊は、もちろん日光を好きで入って来ていただくのですが、自らの将来設計を日光という地で描きながら、限られた期間の中で活動をしています。現状においては、これまでにかなりの経験を積んだ方がおり、また卒業生も相当数出てきています。反面、だんだん人数が多くなればなるほど、この地で自分の職を探したり新たに生業を起こすといった将来設計が難しくなってくるといえます。このため、やみくもに協力隊員を引き入れていいというものでもありません。その辺は市としての役割や責任を認識しながら、協力隊の選定を考えていくことも必要です。これらを含めて、対象地域を検討していければと思えます。

**参加者** 市長から、廃業施設の対応ということではご説明がありましたので、もう1点ですが、鬼怒川温泉街に空き地が結構目立つようになりました。その中で鬼怒川温泉というのは、ホテルに泊まる人が

大半なのですが、鬼怒川を訪れる中で、駐車場がないために通過をするということが、問題の 1 つにあります。安価な有料駐車場を提案して、行政主導の中、増やしていただければと思います。そうすれば、温泉街にいろいろ散策するお客さんも増えて、税収も上がると思います。そういう工夫が、お金がないではなくて、官民一体となって税収が上がるように努力していただければと思いますので、よろしくお願いします。

**副市長** 現状で、適地となる駐車場のイメージが、今のところ掴めていないのですが、今、旧藤原庁舎を解体しています。その空き地は、一部を東京電力のほうで管理用の道路に使いたいというところもあるのですが、当然残地が発生してきます。しかし、あそこは土砂災害警戒区域に当たるので、きちんとした施設を設けることは難しいといえます。さらに有料という点も尚更厳しく、更地化をした上で、有効な利用をするとなると、駐車場なのか公園なのか今のところその辺の想定しかないのが現実的な話です。その他の場所において有料駐車場ということであれば、当然投資した資金を回収するだけのビジョンが描ける話なので、もし適地があれば検討材料になるかと思っています。

**参加者** 市の土地ばかりではなくて、民間の土地も補助金などを出して、復旧させるという方法も考えていただければと思います。

**副市長** 市としても先ほど市長のほうから説明がありましたように、仮に市が何か手を染めることができるためには、合併特例債のように有効、有利な財源が見出せない、現状では非常に厳しいところもあるので、仕組みの問題もあるのですが、そこは少し難しいところもあると思います。

**参加者** 昨年度まで、娘は下原保育園のほうに通っていて、今年度からすくやか保育園に通っています。下原保育園を民間保育園に移行するにあたって、子育て支援課の方の説明がすごく不足していて、質問をしても、もう決まっていることだから、何が気に食わないのですかなどと言われました。市民に優しい職員組織の確立と挙げていますが、本当に適材適所でそういう方を配置できているのか、保護者の中には不満を覚えている人がいっぱいいます。そういうことに対して、どう考えているというか、本当に適材適所で配置できているのかどうか。子育て支援課に勤務しているのに、親の気持ちを考えられない方がいるというのは、市に対しての不信感として私たちは覚えてしまうので、その辺はどうなのかなということ、今、言わせていただきました。

**副市長** 本当にそういった対応、申し訳ないと思っています。この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。午前中に栗山のほうでやらせていただいた中でも、ゴミの話なのですが、そういったものが不法に投棄されているにも関わらず、市のほうが全然現場も見に来ないという、そんなお叱りを受けたところもあります。その辺は当たり前、職員が責務として職務としてやらなければいけないですし、丁寧な説明という点においては尚更のことですから、そこは本当に申し訳ないと思っております。改めて、統合に関する具体的な話について健康福祉部長から説明させていただきます。

**健康福祉部長** 保育園の統合につきましては、保護者の皆様、地域の皆様等のご意見を伺いながら進め

てきたところでありますが、その中で、市の職員の対応に大変失礼な部分があったということは、子育て支援課を所管する部長といたしまして、私からもお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。今後とも、保育園の保護者の皆様が安心して預けられる施設を目指すということが、そもそも前提でございますので、職員にはその辺、きちんとした対応をしていくようにしていきたいと思っております。

それから、今回民間保育園に統合というかたちで、すくやか保育園のほうに至ったわけですが、今後につきましては、保護者の皆様からのお話しも、すくやか保育園側を通じてかどうかはわからないのですが、お聞きするようにいたしますし、すくやか保育園にも、今、その後の状況についていろいろ情報交換しながら進めておりますので、その辺についてもきちんとしてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。申し訳ございません。

**副市長** そういう切り替えの時期で、いろいろなご不満や、今までと違うやり方ということもあると思いますが、その都度、行政のほうに忌憚のないご意見をいただければと思います。市長への手紙というのもございますので、よろしく願いいたします。

**参加者** PTA 会長らしい質問をしたいと思っております。いろいろ言いたいことはあるのですが、教育というところで、先ほども現実的な話とは言いましたが、この先のことを考えて、明るい未来のことを考えて教育に対して、どのように考えているのか聞かせていただけたらなと思っております。

自分の考えは、やはり教育、そして、子供たちというところが、これからの日光の未来に向けて、大切なところになると思っております。教育に力が入っていなかったり、比べて他のところのほうがいいとなれば、親も一緒に引っ越したりするほど、教育に力を注いでいると思うのですが、出て行くのではなくて、日光に来ていただけるような教育、日光としてこういうことをやっているというのを、もっと PR したり武器として考えていけば、おのずと人口や、年配の人たちだけではなく、若い人とバランスのとれた地域になっていくのではないかなと思うのですが、案というか考えがあればお聞かせください。

**教育長** 教育の一番の目的は、人づくりという大きな狙いがあります。もちろん日光の子供たちをどう育てていくかということが、やはり根本的にあると思っております。学校教育に限って言えば、日光市では、とにかく自分を大事にして、そして、地域や周りの子供たちや大人、そういった他者を愛する。そして、そのことは地元である日光を愛する郷土愛、子供たちはこれから不透明な時代を生きるわけですので、生きる力、人と人の接し方、そういったコミュニケーション能力を育てながら、自分の将来設計をして、そういった困難を含めて、自分の力で人生を切り開いていく、そういった子供たちを一人でも多く育てたいというのが、日光市の学校教育の大きな目標になっています。

生まれ育った地域やまちが好き、これは教育の力が大きいと思うのです。自分の住んでいるまちや地域が、いかに他と比べても魅力があるのかや、自分が生きてきたまち、地域が素晴らしいということに気付く、それが、郷土を愛する日光の子供たち。それがやがて先ほど市長の講話にありましたように、いずれ自分の人生設計の中で、よその地域に出ても日光の魅力というか、自分の生まれ育ったまちや地域が本当に素晴らしいと、振り返れるような教育、郷土教育などいろいろ含めてですけども、そういう教育をしていくことが大事だろうと、基本的にはそういうふう考えています。

今、日光市ではいろいろ取り組みをしているわけなのですが、三依小中学校についても、子供たちの

数が非常に減っています。これは随分前からなると思うのですが、連携一貫教育、要するに9年間のスパンの中で、子供たちをしっかりと育てていこうと。これは三依小中学校だけでなく、日光市全体で今、重要な取り組みとして小中連携、一貫教育、要するに小学校は小学校、中学校は中学校ではなくて、9年のスパンの中で子供たちを育てていくというような方策、方向性を設けて、今、実施しているところ

です。  
質問とかけ離れるかもしれませんが、そのような中で、日光市の教育委員会が学校教育で一番取り組んでいることが、学力を付ける、確かな学力を育てていきたいと思いますということが大きな柱になっています。また、知徳体の徳の部分でありますけど、心豊かな人間を育てていきたいと思います、それからそういった子供たちを育てる教職員、先生方の資質の能力を高めていきたいと思います、いろいろな具体策を学校に示しながら、日光市の子供たちが、とにかく日光を愛する、郷土を愛して、そして将来の自分の人生設計の中で、困難にも打ち勝って、主体的に未来を切り開く、自分の人生設計を切り開く、そういう力強い子供を育てていくことで、人づくり、そしてその人が帰ってきて、まちづくりに携わる、そういったところに繋がっていけばいいなと考えています。抽象的な言い方になってしまったのですが、そのような考え方を基本に、今、学校教育を進めているというところ

**参加者** 例えば、僕の理想は、テレビに鬼怒川のニュースが出ていましたけれど、そういう取り上げ方ではなくて、日光はこういうことをやっている、日光はすごいことをやっているというニュースを見たいのです。その中で、自分は子供もいますし、これからということを考えると、なおさら子供のことを考えて、自分の子や周りの子も考えなければと思っています。

例えば、ここから通えなくなるという、今市や宇都宮に家を建てる人が多いと思います。自分の同級生なんかほとんどそうで、だいたいそこから戻ってくることは、ほとんどありません。通学ということで、例えば市が負担してくれるとなれば、家から通いましょうと、常に日光に身を置きながら学校に通えることになったり、自分は三依なので、塾にも通わせられないですし、見てくれる人も限られてしまいます。

今はもうインターネットの時代なので、例えば、優秀な人とネットで常にこの学校の中で、テレビでいう林先生みたいな人とコミュニケーションをとることができたり、実質的な距離じゃなくて、学ぶときに今は違うやり方で、どんな場所でも、学力を身に付けられるというものがあると思うので、今、取り組んでいることでもいいですし、これからというところでも、何か他のところではやっていないことだとか、思い切ってやろうとしていることなんかがあると、日光で良かったなと思えるので、何かあればお願いします。

**教育長** 少し難しい質問かと思うのですが、日光市の子供や学校は、マスコミに取り上げていただいている機会が多いと思います。これは日光市全体というよりも、各学校での特色ある取り組みということで、いろいろな事例でマスコミに取り上げていただいておりますが、それは学校からの発信なのです。学校側でこういうことをやっているの、ぜひ、取り上げてくださいということを、マスコミのほうに発信して、日光市のいろいろな小中学校の活躍の様子とか、そういったものが報道されていると思うのですが、そういった取り組みについては、もちろん教育委員会として、いろいろ支援していくこともあります。これから何を目玉にするかということで、これだというものはないのですが、日光はやはり国

際観光都市でありますので、今、英語については十数年前から特区ということで英語教育には、随分力を入れてきているところなのです。

なかなか成果につながらないところがあるので、今後も検証しながら国際都市日光として、英語に力を入れて、できればよそで外国人に声をかけられたら、中学生あたりが英語で答えられるような、そんな子供たちが1人でも多く増えたらいいなと考えています。

やはり、その一助になると思うのですが、英語検定3級以上の検定資格を取る子供たちを、日光市は50パーセントを目指し、半分以上の子は英検の3級の資格を取れるようにということで、助成もすることになりました。十数年前から続けている英語教育、そして今言ったように英検、そういった英語力のある日光市の子供たちというの、1つ目玉になっているのかなと考えています。

**参加者** 藤原の民生委員は30名定員なのですが、今、3名欠けています。80歳以上の一人暮らしの人たちに、誕生日祝いに品物を届けているのですが、その3名のところには、他の人が行かなければならないので、負担になっています。今回12月に改選がありますので、ぜひ、そのときに民生委員を30名にさせていただきたいと思うのですが、これが自治会長の推薦になっています。

古いことを言って申し訳ないのですが、藤原町のころは役場の職員たちが見つけてくれて、この辺のところはこの人にやってもらったらと助言があったように感じているのですが、合併してから、他の地区も自治会長の推薦だということで、自治会長は大変苦勞しているのではないかと思います。自分がなったりしている人もいるのですが、元々藤原に住んでいる方が、今の藤原行政センターに勤務されている方は少ないと思うのですが、ぜひ、行政のほうも推薦のところにご協力していただきたいなと思います。

それから、88歳の方が5,000円になって残念がる人もいと、市長のお話にあったのですが、この間話したときに、買い物難民という方がやはりいるらしいです。藤原には以前はスーパーがあったり、コンビニがあったりしたのですが、今はなくなってしまったと。そういうところには、鹿沼のほうから軽トラ等で販売に来ている人がいて、助かっているというお話も聞きました。ですから、日光市でも、そのようなことを市でやっていただければいいのなら、買い物難民もちろん三依とか栗山とかいろいろあると思うのですが、月一回の買い物だとちょっと足りないかなと思いますので、その辺ぜひ高齢者にご協力いただきたいなと思います。

**健康福祉部長** 民生委員さんについては、今回改選となりますが、なり手がなかなか見つからないということで、皆さんには大変ご苦勞をおかけして申し訳ないと思っています。

以前は各行政センターあるいは総合支所の職員と一緒にあって、候補者の方にお話をさせていただいたということは聞いております。

民生委員さんを確保する上で、課題について一昨年アンケート調査をさせていただきました。いくつか課題は挙げられているのですが、その中で、自治会と連携が上手くとれるかどうかというのが、民生委員活動をやっていく上での課題ですというご指摘もいただいております。そういったことから、自治会と民生委員さんが一緒になって動く地域、動ける地域、そういったことが求められてくるのかなということで考えております。そういった意味では、自治会長からある程度連携が取れる方をご推薦していただくというのが、まず必要だというふうに考えております。



そうは言ってもなかなか見つからないという地域が確かにございますので、市のほうでどこまでご支援できるかわかりませんが、自治会長とお話させていただきながら、ご支援できるところは支援させていただきたいと思っております。あまり具体的な対応ではなくて申し訳ないのですが、そういったかたちで取り組ませていただきたいと思います。

**副市長** 次に買い物弱者の方のお話だと思います。先ほどお話がありましたように、なかには地域によって移動販売のサービスがあったりする地域もあるのですが、今、日常生活に必要な不可欠な食品等の調達については、例えば、足尾地域などにおいても普及している宅配サービスでカバーできるため、市としても、さすがにそこまでカバーしきれないところもあります。

ただ一方で、買い物というのは宅配サービスで充足できるかというものではなくて、やはり気持ちの問題で、例えば、自分の足で行って、自分の目で見て、自ら選んで買うという、そういった買い物の生活上の楽しみ、生きがいというのを感じられないと、すごく寂しい、悲しい話なのだと思います。そこを今、三依地区と栗山地域のほうでも月に何度かになってしまうかもしれませんが、例えば、今市の中心市街地のほうに送迎をして、自らお買い物をするという楽しみを味わっていただくという取り組みを行っています。

ただ、病院に行く足、そういった根本的な交通弱者の方の問題が大きいところです。そこは、非常に難しい課題で、全市的に過疎地域とか、例えば今市の鹿沼に近いところだとしても、公共交通機関であるバスや電車に乗るまでの家から出かけて行くまでの足がなく困っているという現状があります。ここは、今、検討中なのですが、これも共助の仕組み、互助の仕組みというものを活用させていただきながら、例えば、相乗り送迎のようなライドシェアといったものも考えられます。これは、無償で送っていただくと、どうしても申し訳なさもあるので、若干の実費相当分をお礼としていただきながら、自治会などの仕組みの中で作れるか、もしくはご近所だけでできるか、そういったことも可能性として探っているところです。

広範な市域の中で、そういうものでないと根本的な解決にならないところもあって、今、それらを含めて足の問題を考えているため、少し検討させていただきたいと思っております。

**参加者** まちづくり補助金についてですが、これは来年までだと思いますが、私の自治会は、先日申請して今年 6 回目で終わりになってしまいます。私の自治会は小さいところですが、今、私たちはこの補助金を利用して、バスハイクなどをやっているのです。自治会内の人もだんだん歳をとってきまして、自分たちで出かけるのが、だんだん億劫になってきて、バスで皆さん近所の人と一日和気あいあい、バスハイクできることを楽しみにしています。今回で 6 回目なので、来年はもうないということで話しているのですが、この辺は議員さんもおられますから、ぜひこの辺は、別な関係でも補助金をこれから考えていただきたいなということで、要望しておきます。よろしく願います。

**地域振興部長** 今のバス旅行の補助金についてですが、ご指摘のあったとおり、今の制度としては来年度までという区切りになっています。それまでの間で、各単独の自治会では 6 回までというお話をさせていただいていますが、それぞれ取り組みに相当温度差があり、使っている自治会では 6 回使われているところもあるのですが、藤原地域でも全然使っていないような自治会もございます。

そのような関係で、回数が単独で目いっぱいになった自治会や、なかなか取り組みができないという自治会で、世帯数がそんなに多くないところなどが、隣同士2つ、3つ合わさって何か企画するとか、そういうことであれば6回を越えても、使っていただくのは可能な方式になっています。今のしくみですと来年度までなのですが、そういったことも検討の1つかなと思います。

それからもう1つは、個人的な考えであって、それ以上のレベルではないのですが、こういうまちづくりの関係というのは、先ほどまちの活性化ということでお話がありましたけれども、コミュニティの一番の基本は、自治会組織、隣近所ということだと思います。そういった活動を支援していく補助なり助成なりの考え方というのは、これから補助金の見直し等もあるので、何の確約もできないのですが、担当部署としては、ぜひ、これをまた制度設計をし直して、継続できるようなことができたらいいなと考えております。

**参加者** 観光のほうから見ますと、観光客を温かく迎えるためにも、公衆トイレの経費がどのくらい掛かっているのかなということもありますが、民間が一緒になって、観光客が公衆トイレではなくても、各旅館や商店街でも、私どものトイレをお使いになれますというような組織づくりをしていくと、観光客の方もいいかなというのがありまして、ぜひ、検討していただきたいと思います。

**観光経済部長** 私も4年ぶりに戻ってまいりまして、確か5、6年前くらいにそういった組織があったと思います。今その組織がどうなったか聞いておりませんので、確認させていただきます。非常にいい取り組みだと思っておりますし、日光地域でもやっていますし、それまでも鬼怒川でもやっていたと記憶しておりますので、それは確認させていただいてということよろしいですか。

**参加者** はい、よろしく願いいたします。

**参加者** 今、ライドシェアなどすごく敏感な言葉なので、それも含めてお聞きしたいと思います。

私もそういう観光客の足として鬼怒川とか日光に来たら、便利な地域にしたいと思っておりますし、地域の皆さんがお出かけを楽しんで、生き生きする地域にしたいなと思っております。

例えば、足が共助の足だったりしてもいいのかなとは思いますが、ただ、安全面だったりとか、いろいろな問題はあると思うので、その辺はしっかり考えてほしいなと思う部分と、交通事業者としても、今、いろいろな地域で、デマンドも含めていろいろな仕組みづくりがあると思います。

最近タクシー業界では、アプリがいろいろと発展してまして、海外のアプリでは、デマンドを自分でここここに行きたいと指定をしておく、ある程度人が集まると、デマンドの路線ができるようなものをつくっている地域があります。それは、日本の法律の中では難しいとは思いますが、日光が先進的なことをやって取材されるぐらいの、例えば、交通の移動がこんなふうに便利ですよというのを、ぜひ、どんどん発信してほしいなと思っているので、そういったところを事業者側から提案したときに、補助というか手伝っていただけのかなということも含めて伺います。

今回、市長のお話が、大変な財政のことで守りの話が多かったなと思いますが、ぜひ、市長の夢というか日光がこんなにきらきら輝いているイメージとか、教えていただけたらと思います。

**市民環境部長** 日光市に、デマンドバスとデマンドタクシーがあるのはご存じだと思いますが、あくまでもデマンド交通は、地域内の足を確保するための手段であって、幹線である駅やバス停までをつなぐのが基本となっています。ですから、今市南部地区でデマンドタクシー協議会をつくって、千本木や吉沢などで実施しているのですが、主要路線である下野大沢線と競合しないようにというのが、国の基本となっています。

あくまでも、今市南部地区のデマンドタクシーは、幹線や路線に乗れない、バス停まで行けないドア・ツー・ドアのタクシーでしか行けない方など、そういったエリア内の交通弱者を救うということで実施しているところです。それから、先ほどのライドシェアなのですが、タクシー業者さんとの関係も十分考えますし、事故といったことも考えられます。ですから、事故については、あなたたちの保険の範囲でしかできませんとか、そういったことを条件にしてやらない限りは難しいところもあるのかなと思います。確かに素人の方が運転して、タクシーとは違いますから、そういった危険はありますけれども、どういったかたちがいいのかは、当然タクシー業者さんともいろいろな協議をしなければならないこともあります。まったくそういうところに影響のない場所もあると思うので、そういったところで実証実験をやるとか考えておりますので、ご理解いただければと思います。

**副市長** 私も先ほど申し上げたのは、例えば、栗山地域には公共交通機関として、バスが通っています。ただ、バス停までのタクシーがあるのかというと、タクシーがありません。本当に困ったときは、皆さんの互助の力でという意味であります。一方、同じ過疎地域と言われている足尾地域の中には、タクシー事業者さんがいらっちゃって、現実に廃線になった唐風呂線というバス路線の代替としてタクシー券、ここは代替手段ということなものですから、そういった処置をさせていただいているところもあります。地域の実情や環境によって、そこも全然違ってくるので、実証実験がしやすいところからやらせていただくかなというところですよ。

**市長** この日光市の歌のようなまちにしたいと思います。みんなで力を合わせて、心をあわせて。厳しい話をしましたが、438億円の予算を組んでいて、例えば、観光で言えば東京の下野新聞社さんの事務所をお借りして、国内型のプロモーションとして、いろいろな発信をしております。いろいろなテレビが取材に来るのも、そこから、メディアに働きかけをして、実際にかたちになっているのもあります。

私は、オリンピックが終わってからでいいのかなと思ったのですが、今から種をまきましようということで、今年から欧米のインバウンドのほうにも、プロモーションを仕掛けているところもあります。守りばかりに見えるかもしれませんが、攻めるところは、今までの事業を継承しながら、やっているところはやっています。

ただ、この懇話会のときに、私がこういうことも頑張っています、ああいうことをしていますと自慢話ばかりしても、何も課題になりません。皆さんが困っている細かいところを話し合っていくというのが、本来の懇話会の目的なところでもありますので、そういう意味で夢も希望もない話になってしまったのかもしれませんが、私は継承と改革で、強くやさしい人が輝く日光をつくる、それに尽きる場所に頑張っていきたいと思います。

日光の教育においても、前市長のときから給食費が3割サービスになっています。3割といえども、7,000万円近いお金を子育て支援に入れさせてもらっていて、教育長を中心に日光市の子供を大切に育てよう

と考えています。学力の問題は、いろいろ個人差があったりするので、どこまで公教育の中でということもありますが、少しでも学力が付くためにやっています。目立つことが良いのかどうかというのも、非常に考えたほうが良いのですが、夢がないと言われないように、夢を追い求めて行きたいのですが、今は現実を直視しながら、まったなしの状況から何とか脱出する方向に、皆さんと力を合わせて頑張っていきたいというのが、話が暗くなってしまう理由です。

**副市長** この懇話会につきましては、今のところ来年も続けたいと思っていますので、また、皆さんにお目にかかってお話いただけるのを楽しみにしております。